

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こ みち
教育の小径No.93
7月号
2016 July

今月のことば

異口同音

多くの人たちが口をそろえて、同じことを言うことです。考えや考え方が一致することを言います。調読みでは「口を異にし、音（おん）を同じゅうす」となります。



国士館大学教授
北 俊夫先生

夏の自由研究 ー指導のヒントー

- 子どもたちが夏の自由研究に取り組むことには、主体的な学習態度や計画性、論理的にまとめる力などを養うというねらいがあります。
- 自由研究を効果的に進めさせるためには、研究テーマの設定、研究の進め方などを事前に指導しておくことがポイントです。

今月の記念日

土用の丑の日(7月30日)

土用は四季ごとに1回ずつあり、夏の土用を土用の丑の日と呼んでいます。2回の年もあります。今年は7月30日の1回です。夏バテ防止にウナギの蒲焼を食べるとよいとされています。

自由研究の意義

夏休みに「自由研究」という課題を出している学校が多くあります。子どもたちが自由研究に取り組むことには、次のような意義があります。

まず、教科や内容を指定して課題を提出させる場合と比べて、子どもの問題意識を重視し主体的に取り組む態度を育てることができます。特に何をテーマに取り組むのかを子ども自身に考えさせることによって、「調べたいこと」「やってみいたいこと」「作りたいもの」を強く意識させることができます。能動的に取り組もうとする意欲や態度は、何ごとにおいても大切なことです。

次に、研究は一定の筋道や手順を追って進められますから、計画性が培われます。場当たりではなく、段取りを立てて、計画的に進めていかないと十分な成果は期待できません。自己管理能力を育てる機会にもなります。

そして、研究の成果を構想する力やまとめる力を育むことができます。まとめるときには、筋道を立てて論理的に整理する能力が求められます。「もの」を製作した場合にも、その説明書きを書かせます。文章などでまとめる活動は表現力を育てる場です。

夏休みの課題として自由研究をさせ

る場合には、自由研究に取り組む意義やねらいを、子どもたちだけでなく、保護者会や学級通信などで保護者にも伝えておきたいものです。

子どもが壁にぶつかったときなどには、保護者の立場から適切なアドバイスをしてもらうように依頼しておくことも考えられます。

事前に指導しておきたいこと

夏休みに入ってしまうと、子どもたちは基本的に一人で取り組むこととなります。自由研究をより実りあるものとして取り組ませるためには、なによりも事前の指導が重要です。「自由研究に取り組みなさい」だけでは、先に示した成果は期待できません。

事前には、まず「テーマ」を明確にさせます。テーマとは、日頃から「おもしろい」「どうしてだろうか」と疑問に思っていることややってみいたいことです。調査、見学、観察、実験、飼育、栽培、造形、製作、実習、体験などの学習活動が考えられます。これまでの教科の学習で生まれた疑問をもとにテーマを設定することもできます。

テーマを設定するときには、どうしてそのことにチャレンジしたいのか、どうしてその研究に取り組みたいのか、動機や理由をはっきりさせます。

次に、研究計画を作成させます。これは研究の段取りを立てさせることです。「いつまでに」「何を」「どこまで」行うのか。研究のおよそのスケジュール（日程）を作成させておきます。これによって先が見えてきますから、研究の見通しが立ち、やる気が高まってきます。ただ、あまり窮屈なものや無理な計画を立てると、かえって自分を苦しめることになっていきますから、余裕のある計画にさせます。もちろん取り組んでいる過程で修正されることは十分考えられます。

自由研究には、子どもたちが基本的に一人で取り組みます。どうしたらよいか、困ったとき、学校のように教師という指導者が近くにいません。そのようなときにどうしたらよいかを事前に指導しておきます。

地域には、公共の図書館や児童館、博物館、郷土資料館、美術館、植物園などの施設があります。そこには研究のヒントがあり、司書や学芸員などの専門家がいることがあります。地域には「もう一人の先生」がいます。それらの人々を訪ねることによって、適切なアドバイスを得ることができることを伝えておきます。

以上のことを学級活動などの時間を利用して、夏休みを迎えるまでに指導しておきたいものです。

通知表の見方

子どもたちや保護者が一喜一憂する文書に「通知表（通信簿）」があります。最近では、ほとんどの小学校で「絶対評価」という評価方法が取り入れられています。学期末に渡される通知表は各教科の観点別評価や評定が絶対評価で記録されています。

子どもの学習状況を評価する方法には、大きく絶対評価と相対評価があります。前者は予め設定された目標に照らしてその目標が実現されているかどうかを、一人一人の子どもに即して評価するものです。絶対評価には子どもの努力や頑張りの成果が直接表れるというメリットがあります。そのため、すべての子どもが目標を実現していれば、すべてが「A」になるということは論理的にありえます。

ただ、デメリットもあります。目標を低く設定したり、基準が甘かったりすると成績（結果）もそれに連動することです。担任のあいだで目標や基準（ものさし）を共通にしておかないと、担任によって評価の結果が違ってしまうという問題があります。

また、現在の通知表では、学級という集団のなかでの位置が明確にならないというデメリットがあります。保護者のなかには相対評価による通知表の経験者も多くいます。そのため「わが子の成績は学級のどのあたりなのか」に関心をもつ保護者もいます。このような保護者の疑問にも個別に答えられるよう、「およその位置」を予め把握しておくことも必要でしょう。



国語科と言語活動

昨年11月、文部科学省が開催した全国指導主事連絡協議会の場で「いわゆる『単元を貫く言語活動』の取り扱いについて」の文書が配布されました。

文書によると、今後、文部科学省は「各教育委員会等に指導・助言する際には『単元を貫く言語活動』という用語及びそれに関連した『入れ子構造』『ABワンセット方式』等の用語を使用しない」としています。教育委員会は「特定の手法に、各学校の授業が偏重することがないように説明に留意する必要があります」とも述べています。

文書には、学校現場等から「特定の

実践事例を国等が紹介してきたことに対して、特定の指導の型の押しつけではないか」、「この方法でなければならないのか」といった疑念や誤解が出されていたことが示されています。教育課程を編成するのは各学校であり、授業づくりの主体者は各教師一人一人です。この原則に立ち返ると、文部科学省として「行き過ぎ」を認めざるを得なかったのでしょう。

なお、今回の文書はこれまでの文部科学省による発信のあり方について見直したものです。文書は「各学校において取り組まれてきた『単元を貫く言語活動』による授業改善の実践について見直しを求めるものではない」としています。子どもの実態や課題に応じた、各学校の主体性が求められます。

コラム ものの見方・考え方とは何か(21)

応用・転移する

ある典型的、代表的な事柄をとおしで学び取ったことをもとに、そのことを他の事柄にも応用・転移することは重要なものの見方や考え方です。応用とは、原理や原則、概念を他の具体的な事柄や事例にあてはめて利用することをいいます。転移とは他のもの（こと）に移すことで、応用と類語です。

「一つを学んで10がわかる」という言い方があります。これは、あれもこれも学ぶのではなく、一つのことをじっくり学び、それをとおして学んだことを10のこと（10とは他のいろんな事柄のこと）がわかるようになる（する）という意味です。ここでいう一つのことをとおして学んだことは、他の事柄にも応用・転移できる価値のあるものです。

学校や会社、ホテルなどにはマスター・キーと呼ばれる鍵があります。一つの鍵でいろんな部屋の鍵を開けることができます。便利で価値あるものです。部屋ごとの個別の鍵は必要ありません。「10がわかる」とはこうした応用性、転移性のある、マスター・キーに相当する鍵（見方や考え方）を身につけることです。

情報社会においては、学校教育であれもこれもすべて学ばせることは不可能です。また情報は将来にわたって常に生産され続けます。

これからの学校教育においては、変化の激しい社会を生きていくために、意欲や主体性などの資質や思考力・判断力・表現力などの能力を育むとともに、未知なるものに対しても応用性、転移性のある知識や技能を習得・獲得させることが求められます。

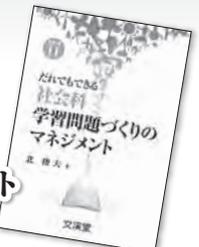
INFORMATION

北俊夫先生の著書

定価：各**950円**+税

最新刊

だれでもできる **社会科 学習問題 づくりの マネジメント**



A5判 104ページ

こんなときどうする! **学級担任の 危機対応 マニュアル**



A5判 96ページ

なぜ子どもに **社会科を 学ばせるのか**



A5判 104ページ

言語活動は **授業をどう変えるか** 一考え方と実践のヒント



A5判 112ページ

編集後記

自由研究受賞作品の展示会をのぞいたことがあります。その出来に仰天したことを覚えています。大人顔負けの研究がずらり。子どもたちの探究心・好奇心には底がないのだなあと思改めて感じ入りました。(F記)

企画・編集：ぶんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2016年7月1日